第4回山の気象シンポジウム (2)*

昭和35年6月11日　於 気象庁第1会議室

雪面の温度効果

理大気象研究部　下村登喜夫

今年の正月谷川岳で雪面付近の温度を検べた．サーミスターで地面，雪面，10cm，50cm，100cm の高さについて1時間ごとに測った．その結果次のことが判った．

晴の時は 50cm の所が最も気温が高い．曇の時は同様だが傾斜はゆるい．雪の時は 100cm と 50cm では同じ，雨の時は雪面の温度が雪の時よりも高い．

今冬の山の気象

(第4回山の気象研究会 No. 1)

気象庁　庄司　亮

要旨　都岳連冬山気象期間（34年12月26日—35年1月4日）には東京緑峰山岳会（白馬岳）マルスグルッペ（西穂）山岳巡礼クラブ（北岳）気象庁山岳部（八方，五竜）三角点友の会（富士山）の報告が集まった．結論を云えば(1)移動高が蔽っていれば北アも南アも登山可能だが，北ア北部には雪崩の危険がある．気温は高めである．(2)日本海を低が東進する時は北アも南アも前線通過時に風が強く悪天候になる．(3)低が南側を東北進する場合南アも北アも悪く，高気圧が張り出して来ても回復は1日位遅れる．(4)華南から南方洋上にHが張出して来た場合天気は良くなるが気温は低目で風が強い．(5)気温は12月31日，1月1日，4日は高く2日，3日は低い．2日3日のように華南からHが張り出して本邦を蔽う場合，朝夕は−10℃前後で，好天のため日変化がある．31日，4日は日本海Lのため高目．(6)風は天気が良い時には強い．移動高の中心だけで弱い．

討論（奥山）天気図から推定したのと違って意外な場合はないか（庄司）1日に南の風が入ったのは意外だ．これは日本海にあった気圧の谷に吹込んだのだろう．（大井）風の最も強かったのは（庄司）2日に北岳で南の風力7，八方尾根で風力6だった．（中尾）（キリスト教大）2日の低の北岳に与えた影響は（庄司）池山では午前中は快晴，昼は雪，14時から晴，夕方から雪，夜半快晴となった．（大井）すると前線が2回通ったわけか（庄司）一本で11時から14時にかけて通ったと思われる．（大井）八方尾根では3回位突風を感じた．それで前線は複雑に分れていたと思う．（河島）（岳人ク）吾々は鹿島東尾根に居たが高曇で，3日は午前中快晴無風だった．（大井）確かに八方，牛首迄が吹雪でそれから南には雲がかかっていなかった．（渋谷）（シチズン）吾々は1日の天気図から移動高になるかと思ったらならなかった．（久米）冬は仲々ならないものだ．（なお本稿の詳細は都岳連刊行の冬山気象期間報告に詳しく書かれている）．

雷鳥沢遭難の気象

(第4回山の気象研究会 No. 2)

明治大学山岳部　橋本　清

要旨　昨冬12月24日夜雷鳥沢で幕営中雪崩で埋没1名死亡した．此の日は−6℃位で普通より4℃位高かった．新積雪は足首位，雪質は軽く23日の重いのとの間に差があった．雷鳥荘の室堂寄り50mの所にテントを張っていたが，雪崩は別山乗越の下50m位の所から出て雷鳥沢を越えて反対の斜面に上って来た．雪崩が来る3秒位前にドシンと云う音と突風があった．この場所は北風の風蔭になり風は弱かった．雷鳥荘主人の談では雪崩は25年と29年にあっただけだとのこと．

討論（広瀬）危険は感じていなかったか．（橋本）雪が少く水面が出ていた位だったので少しも感じなかった（久米）23—24日の天気予報は確かに難かしい．然し23日の天気図の気圧の谷を1日10°で東に進むとすればよい．（大井）去年の12月31日にもそのような天気図だった．冬によく突然出来る日本海の低の予報は全く難かしい．（久米）雪崩は前線通過後に起きている．

今冬の雪崩

(第4回山の気象研究会 No. 2)

気象庁　宮内　駿一

要旨　雪崩は8割までが気象と関係している．34年度の雪崩と東京の気圧変化図を比べて見ると，谷の通過前後数時間内に雪崩が起る．富士山の気温を見ると気温の高極又は低極の前後に起る．

* The 4th Symposcum of Meteorology for mountaincering

春の北沢合宿の気象

（第4回山の気象研究会 No. 3）

気象庁　大井　正一

34年3月19日から24日までアルムクラブでは北沢合宿を行なった．私は先発隊として19日の夜4名で出発した．19日朝戸台でバスを下り戸台川の河原でラジオ天気図を描くと内地は巨大な移動高で蔽われ春霞のある快晴．戸台河原を遡り，八丁坂にかかると残雪を踏むようになり北沢峠を越えると未だ全く冬山の世界である．北沢小屋の手前で川が割れて水流が出ているところにＢＣを建設した．20日4名で仙丈を往復する．樹林帯は雪が深くボコボコと膝迄落ち込むので難行した．森林限界から上はクラストして居り小仙丈からはアイスバーンになっていた．午後になって高曇りとなり北岳，駒に雲がかかった．然し夜に入って明月となった．天気図を描くと9時には上海に低気圧が発生し日本海に寒冷前線がある．夕方雲がかかったのは此の寒冷前線通過のためである．21時には寒冷前線は太平洋岸に停滞し，上海の低気圧は東支那海に出ている．従って吾々は明日午後から天気は悪化すると判断してテントの周囲の雪に排水溝を作り等した．

夕方後発の7名到着．22日，今日は低気圧は必ず来るものと思い警戒した．然し意外にも一点雲なき快晴であった．仙水峠からアサヨ峰往復，気温昇り，雪面は日射クラストして眩しくてサングラスをかけても眼が痛く，雪の反射で蒸風呂の如き酷暑の感じであった．夜になっても名月であった．然し23時頃になって突然物凄い帯状のA_cが西から急速に進んで来た．天気図では9時には低気圧が東支那海にあり福岡まで降って居る．然るに21時には低気圧はソウルに北上してしまい，閉塞点が厳原にあり，雨は汐岬まで来ている．それにもかかわらず快晴だったのは移動高が依然として三陸にあるためである．此の意外に遅れた低気圧が事故を起したのだ．3時頃から雪が降り出した．

22日は終日小雪で停滞した．天気図では9時には低気圧は日本海に入り西郷の北にあり，閉塞点は高松にあり雨は仙台，輪島までしか及んでいない．21時には低気圧は秋田附近，閉塞点は三陸沖に達し，松本，御前崎，大島等は晴となっている．従って当然雪は止むものと思ったところが意外な事が起った．23日朝4時に起きて6時頃テントを畳もうと外に出たら，物凄い吹雪で目も明けられないのでアイゼンのまま再びテントの中に戻らねばならなかった．8時頃になって少し収まったので大雪の中を下山にかかった．北沢峠から八丁坂はアイスバーンになって難行した．藪沢出合に来ても駒，仙丈，鋸等には黒雲が渦巻き雪が降っていたが，三峰に近づくにつれて晴れて来た．お昼頃伊那に着いたが，空は完全に晴れているのに木曾駒はやはり雄大積雲が渦巻いていた．9時の天気図では低気圧は既に三陸沖に去り，函館附近に副低があるが全国的によく晴れている．何故こんなに悪天候が残ったかと云うと，それは恐らくは上層風が異常に強く，又寒冷前線面が山にはいつまでも引っかかっていたためではないかと思われる．此の悪天候で木曾駒で2名凍死，奥又四峰新村ルートで1名凍死，八ケ岳赤岳沢で1名凍死，同赤岳中岳間で1名凍死，それに以下の二つの遭難があった．（参考文献　アルム通信）

不帰岳第一峰の遭難

（第4回山の気象研究会 No. 4）

山岳同志会　深沢彰一郎

22日ＢＣは唐松沢やや下部にあり，取付点よりＡＢＣ尾根に分れて登った．22日午後から23日一杯は猛吹雪であった．A尾根の状況はB尾根からはよく見えなかった．A尾根を登った公文康雄，村山光水君らは恐らく23日中に登はんを完了し，Ａルンゼは雪崩の危険で下降出来ず稜線を唐松小屋に向う途中，氷化した斜面でスリップしたのではないか．24日は曇でＢ隊は下山した．25日快晴，26日快晴でＡ尾根を登ったが手がかりがなかった．捜索には45日延206人を動員したが一年後の今に到るも遺品すら発見出来ない．

不帰岳第三峰の遭難

雲表クラブ　齊田安生，片柳　康

22日ＢＣは八方尾根上にあり，唐松谷に下ってから隊に分れて登った．第一尾根を登った深川宏夫，高村幸作片柳康の3名は22日はビバーク，23日15時登はん終了．稜線に出ると衣服がバリバリに氷ってしまう．二峰は氷化して不可能のため風下側にツエルトビバーク．風は息なしの強風．マッチ20ケ，ライター2ケを使い尽したが眠れない．23日高村君が弱り始めたので1，2峰間ルンゼを下る．沢の中は逆風と吹雪で目もあけられず，15日高村氏死亡．日が暮れ夜は名月でビバークした．

討論　（大井）さっきの山学同志会の登はん体勢不充分という意味は（齊田）吾々はＢＣが屋根上にあったのに彼等は沢の中であったため，取付点までの登りのアルバイトがあったという事ではないか（奥山）社会人だから天気が悪くても登るということだが根本的な事だと思うが，（齊田）どたん場となればやるでしょうね（奥山）結局ウェイトの問題になると思うが（広瀬）